

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
鹿児島市	犬迫町川路山・横井原 （川路山・横井・古別府・萩別府・櫛堀）	令和4年2月28日	—

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	30.3 h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	19.5 h a
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	12.8 h a
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.8 h a
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3.8 h a
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.2 h a
(備考)	

## 2 対象地区の課題

<p>当地区では、主に露地野菜やハウス栽培による軟弱野菜の生産が行われている。露地畑は狭小農地や道路との接続が悪い農地が多く、作業効率が悪い。農業用施設は広域に点在しているほか、老朽化が進んで補修が必要なものが増えてきている。農業者においては、アンケート回答者のうち、約4割が後継者がいないものの貸し出す意向がないと回答しており、地域の農地を保全していくためには第三者への農地貸借の理解を得る必要がある。</p>
--

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>既存の園芸ハウスは、耕作者による話し合いを継続し、機能維持を図りつつ中心経営体への利用集積に努める。露地畑は、農地バンクの活用について所有者の理解を得るよう努め、中心経営体がまとまった農地を利用できるようにする。</p>
<p>地区外からの入作希望者も受入れ、中心経営体として確保・育成し農地集積を進める。</p>

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p>・所有者に農地を貸し出してもらえよう、農地バンクの活用などについて多くの所有者の理解が得られるよう丁寧な説明を続けていく。</p>
<p>・地域農業に必要な既存施設の機能維持を図り、次の担い手へ継承する。</p>
<p>・中心経営体などへ農地や園芸ハウスの利用集積を進める。</p>
<p>・共同販売の拡大など、有利販売の方策を検討する。</p>
<p>・新規就農者など新たな入作希望者への技術継承を行う。</p>

中心経営体

属性	経営体 (氏名)	経営者・代 表者の年齢	構成員 (従業員)	後継者の有 無	現状		今後の農地の引受けの意向		
					経営内容 (作目)	経営面積 (h a)	経営内容 (作目)	経営面積 (h a)	農業を営む範囲
認農	A	65 歳	2 名	無	軟弱野菜 露地野菜	0.91 ha	軟弱野菜 露地野菜	0.91 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認就	B	37 歳	2 名	—	軟弱野菜 露地野菜	0.49 ha	軟弱野菜 露地野菜	1.00 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	C	70 歳	2 名	無	軟弱野菜 露地野菜	0.23 ha	軟弱野菜 露地野菜	0.28 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	D	46 歳	2 名	—	畜産 (飼料作物)	0.18 ha	畜産 (飼料作物)	0.18 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	E	35 歳	1 名	—	施設野菜 露地野菜	0.16 ha	施設野菜 露地野菜	0.22 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	F	44 歳	1 名	—	露地野菜	0.14 ha	露地野菜	0.14 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	G	43 歳	2 名	—	軟弱野菜	0.13 ha	軟弱野菜	0.71 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	H	51 歳	2 名	—	畜産 (飼料作物)	0.12 ha	畜産 (飼料作物)	0.12 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
認農	I	80 歳	3 名	有	施設野菜 露地野菜	0.37 ha	施設野菜 露地野菜	0.37 ha	川路山、横井、古別府、萩別 府、樋堀
計						1.82 ha		3.02 ha	

※後継者の有無については65歳以上の中心経営体のみ記載